

令和6年度三木市立図書館協議会（第1回）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 令和6年7月2日（火）午後1時30分
- (2) 閉 会 令和6年7月2日（火）午後2時30分

2 場 所 三木市立中央図書館 1階 視聴覚室

3 議事日程

- 第 1 委嘱状の交付について
- 第 2 出席者の紹介について
- 第 3 報告事項 令和5年度図書館事業実績について
- 第 4 協議事項 令和6年度図書館事業について
- 第 5 協議事項 その他

4 出席者

会 長	長	田 中	智 美
会 長 職 務 代 行		藤 原	美 佐 子
委 員		高 森	伸 彦
委 員		上 村	和 美
委 員		香 月	尚 美
委 員		井 上	博 子
委 員		平 野	照 子

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

図 書 館 長		伊 藤	真 紀
中央図書館主査		大 西	恵 美
青山図書館主任		辻 本	美 保
吉川図書館主任		佐 伯	あ ゆ み

7 傍聴者 なし

開 会

会長は、令和6年度第1回三木市立図書館協議会の開会を宣言した。

日程第1 委嘱状の交付について

館長は、三木市立図書館条例第5条第3項の規定により、田中委員に図書館協議会委員を委嘱した。

日程第2 出席者の紹介について

委員、事務局職員の順で自己紹介した。

日程第3 報告事項 令和5年度図書館事業実績について

○事務局は、新規登録者数、個人貸出冊数、予約・リクエスト数及び図書在所蔵冊数の推移について、資料1のとおり説明した。

また、資料にはないが、全国6万人から8万人都市の令和4年度実績において、三木市の貸出冊数が前年度3位から4位になったことを報告した。反対に4位から3位になった京田辺市と比較をしながら現状を説明した。

(委員) 3位になった京田辺市は直営か。

(事務局) 直営である。先月、個人的に視察したが、規模や利用の様子は三木市と変わらない印象を受けた。ただ、京田辺市立中央図書館はJR京田辺駅から近く立地が非常に良い。また、分館も青山図書館と同じような新興住宅街のコミュニティセンターの中にあり、来館人数も多く活発に利用されているようであった。また、京田辺市は市民一人当たりの資料費が三木市よりはるかに多く、新しく魅力ある資料が豊富に揃っていることが貸出を伸ばしている要因ではないかと考えられる。

(委員) 令和3年度の資料費は京田辺市の方が高かったのか。

(事務局) そうである。三木市が一人当たり 1 8 8 円に対して、京田辺市は 3 2 3 円である。

(委員) 資料費によって逆転現象が起きた可能性は十分にある。

(委員) 利用者層は三木市と同じような感じか。

(事務局) 訪れた日が平日であったこともあり、高齢の方がゆったり過ごされていた。三木市の中央図書館と似たような印象を受けた。ただ、貸出冊数に上限がないところが三木市とは違う。

(委員) 三木市の貸出冊数の上限は 1 0 冊で十分だと思うが、それより多くを望まれる方がいるのか。

(事務局) 人によっては、一度にたくさん借りたいという方もいる。

(委員) 「図書館利用者アンケート」の結果は次回報告となっているが、アンケートの分析に協力をされている委員から概要を説明していただきたい。

(委員) アンケートが印刷時にずれてしまったことにより、マークシート的位置が一致しておらず、データの読み込みに時間がかかっている状況である。また、枚数も多く約 1, 3 0 0 枚ある。

現時点で回答を見ると、自由記述の欄がどの館も約 2 0 パーセントあり標準的な回答率になっている。記入の内容は、「コロナ禍に実施していた貸出冊数 2 0 冊、貸出期間 3 週間に戻して欲しい」、「本の汚れが気になる」、「こんな本を入れてほしい」など様々な意見が寄せられた。また「いつもありがとうございます」といった図書館へのお礼を書かれる方も多かった。

回答者の年齢層は 7 0 代が一番多く、1 0 代、2 0 代は少ない傾向にある。ただし利用されていても回答していない場合があるため、回答者イコール利用者とは限らない。

来館地域は三木市内が多く、三木市外からの利用者が一番多いのは中央図書館である。来館手段はどの館も自家用車であり、将来的に運転ができなくなった場合に来館ができるかどうか不安を感じる声

がある。

図書館員の対応についての項目は、高く評価をされている。職員の話し声が気になるという意見もあるが、総じて対応が丁寧だと感じている方が多い。

予約・リクエストサービスについての項目は、回答者に高齢の方が多くいることも関係しているのかもしれないが、利用したことがない方が意外に多く、どの館でもその傾向は見られる。

相対的に利用満足度が高い結果が出ている。

アンケートは最終的に中央図書館、青山図書館、吉川図書館の3館を合わせて分析を行いたい。

(委員) アンケート結果から見えてくるものがあると感じた。次回の報告を楽しみにしている。

日程第4 協議事項 令和6年度図書館事業について

○事務局は、令和6年度の図書館重点施策とその他業務内容について及び令和6年度年間事業計画(案)について、資料2と資料3のとおり説明した。

(委員) 中学生は夏休みに入ると忙しいが、小学生は活発に図書館を利用しているか。

(事務局) 利用は多くなる。特に週末は保護者と一緒に来館し、「わくわく!自由研究ヒントカードコーナー」で自由研究のテーマを探す姿が見られる。

(委員) 最近「理科離れ」が進んでおり、夏休みの宿題も自由研究は自由選択になっている。提出される作品の質も下がっている。

昔は現地へ行って実際に集めたり、触れたりする体験をテーマにしたものが多かったが、最近ネットからの情報に頼っている。

生成AIで様々なことが可能となる時代だが、自分で見て、読んで、想像して、書くという経験をしてほしい。

読書感想文の課題も自由に読書をしてほしいが、課題にしないと読まないのでは、という悩みがある。

「わくわく!自由研究ヒントカード」など図書館の活動を通して、

子どもたちの読書へのモチベーションをあげてもらいたい。

(委員) 昨年、中学3年生の孫も自由研究は自由選択だった。提出方法も紙ではなくタブレットからになっており、やり方が昔と変わっている。これからの図書館には、正しいものを選び抜く力、また調べる力を養う役割を担ってほしい。

図書館で配布している「自由研究おたすけガイド」は、初めての作成から10年ほど経過しているので、内容も更新していった方が良くと思う。

(委員) 小学校も、夏休みの宿題の出し方が選択性の方向に進んでいる。ただ、デジタルとアナログそれぞれの良さがあるので、デジタルだけに偏らず利用してもらいたい。

図書館システム機器更新でデジタル化が進んでも、デジタルが苦手な方や高齢の方には紙での対応をしてもらえるのか。

(事務局) 紙での対応も併用していく。

(委員) 時代の変化に伴って、子どもたちの状況も変わってきていることを実感した。夏休みという貴重な時間を、どっぷりと本に浸れる機会にしてほしい。また図書館で行っている様々な行事を活用して、本と触れ合ってもらいたいと願う。

(委員) 三樹小学校では、家で読書をする日を今年度復活させた。昨年度取り組みを止めたところ、本を借りる数が急激に減少し、ちょっとした取り組みで、子どもたちが変わるのを実感した。

(委員) 「図書館利用者アンケート」で予約を知らない人が多いとのことだが、私の周りでも、スマートフォンやパソコンでの予約の仕方が分からない方がいる。便利な機能なので使用方法を伝えるのだが遠慮される場合がある。利用者層で70代が多いということは、デジタルに苦手意識がある方も多く、高齢になるとよりその傾向が強くなると周りの方を見ていて思う。

(委員) 別所中学校では、中学1年生が小学校に行って読み聞かせをす

ると、「この本知っている！」と反応がある。小さい頃に親に読み聞かせしてもらっているケースが多く、このような幼少期の読書体験が重要である。どんなに時代がデジタル化しても、アナログで声に出して表現する大切さを感じる。

(委員) 読み聞かせの活動では、コロナ後参加人数が戻っていない。おはなし会のプログラムに工作を入れると参加率が上がる。赤ちゃん向けのおはなし会は、曜日を変えたら申し込みが増えてきた。赤ちゃんの時から図書館を継続して利用してくれることを期待している。おはなし会を知らない、興味がないという人が増えており、この層をどうやって取り込むか、今年の活動課題としている。

(委員) 令和7年度の図書館システム機器更新に合わせて、可能であればZoomを使ったオンライン講座を開催してほしい。図書館への来館が難しい方も参加できるようになり、今以上に図書館の活動が広がると思うので検討をいただきたい。

また、「自由研究おたすけガイド」にインターネット情報の取り扱いがあるが、AIなどの正しい情報の使い方を教える内容を盛り込んでも良いと思う。ホームページからダウンロードができる点は非常に使いやすくて良いと思う。

(委員) 私も昨年度に本の修理講座や講演会などに参加した。令和6年度も様々な事業を計画されている。大人向けにも実りある、楽しい講座を企画されており、とても楽しみにしている。

(委員) 自分の子どもが小さい時には読み聞かせをしてきたので、その子どもたちが大人になった時、今度は自分の子どもへ読み聞かせを引き継いでやってほしいと思う。

(委員) 先ほどの、読書感想文の課題を出すと読まなくなる、というのは大学生も似たところがある。コロナ禍は特に本が借りに行けない状況だったので、提出レポートの参考文献としてホームページの参照が多かった。

学生はスマートフォンなど、簡単に情報を得られるところから収集する。本はまとまった情報が得られるが、メリットを感じていない

学生が多い。レポート作成時は必ず参考文献は3つ以上入れるなど、条件を出して図書館利用を促している。

地域マネジメントを学ぶ際は、公共図書館に行かないと得られない情報もある。図書館を利用するための仕掛けづくりが必要である。

(委員) 子どもも大人も、文章を読んで何が書かれているのかを正確に読み取る力をつけてほしい。

これは文章を読み込むことで力がつくと思う。中学校では毎朝10分間の読書時間を設けているが、子どもの読み取る力の差が顕著になってきていると実感する。図書館をたくさん活用して長い文章を読んでほしい。

(委員) 私事だが2歳の孫に絵本を読んでいる。絵本はページの奥行を楽しむことができ、絵を見ながら会話が生まれる。これはアナログの良いところだと思う。

また、ボランティア活動で「こんな企画をしたい」と図書館の人に相談すると、アイデアを出してくれたり、お手伝いをしてくれるなど、とても良い協力関係が築けており助かっている。この場を借りて感謝を申し上げたい。

日程第5 協議事項 その他 図書館ボランティアの協力者謝礼の見直しについて

○事務局が、次のように説明した。

図書館ボランティアの協力者謝礼について見直しを行いたい。現在1回の活動につき団体は1,500円、個人は500円の協力者謝礼をお渡ししているが、活動回数が予算上限に達しており、新たなボランティア希望者の受け入れができない状況である。

生涯学習の場を提供することが図書館の大きな役割のため、謝礼金額などを見直し、幅広く活動の機会を設けていきたい。現在ボランティア活動をしていただいている方にはご協力、ご理解いただきたい。

閉 会

会長が、令和6年度第1回三木市立図書館協議会の閉会を宣言した。